



印刷機のすぐ近くに設置されたKODAK ACHIEVE T800 プレートセッター



コロナ禍の2021年に導入した菊全判LED-UV印刷機(6色コーター付)

# LED UV印刷機によるG段ダイレクト印刷とKODAK SONORAプロセスフリープレートで、環境に配慮した紙パッケージの生産工程を実現。

## CHALLENGE

パッケージ印刷会社が、環境配慮と省力化、コスト削減を同時に実現するためには、どうすればよいのでしょうか？

## SOLUTION

KODAK SONORA XTRAプロセスフリープレートによる製版工程の完全無処理化。

KODAK ACHIEVE T800プレートセッターによる自動化と効率化の推進。

## RESULTS

- G段をはじめとする紙パッケージの環境対応をさらに推進。
- 年間約150万円(薬品、廃液回収、予備版)のコストを削減。
- 従来の有処理版を超えるすぐれた耐刷性を実現。
- 現像ムラのない安定した出力品質を実現。
- 印刷機のそばにCTPを設置し、運搬時のキズを防止。
- 自動化装置とスキルレスの作業性で省力化と省人化を実現。

KODAK ACHIEVE T800プレートセッターとKODAK SONORAプロセスフリープレートを導入し、製版工程の無処理化とあわせて自動化と省力化、コスト削減を実現。

### 多品種・小ロット・短納期のオーダーパッケージを一貫生産

埼玉県川越市に本社・工場を構える株式会社ゴードーは、創業70年超の歴史を持つ印刷紙器製造メーカーである。菓子ギフト、通販、化粧品、弱電製品などの化粧箱を中心に、段ボール(輸送箱、緩衝材)や紙製POPなど幅広い紙器関連製品を手がけている。社内には「箱」の設計・デザインから、印刷、加工、組立、納品まで一貫した生産体制を構築し、特殊加工についても専門の外注業者との緊密な連携によって、ワンストップ対応を実現している。なかでも高品質で付加価値の高い多品種・小ロット・短納期のオーダーパッケージを得意分野とし、同社の強みにもなっている。コロナ禍の2021年にはRMGT社製の菊全判LED-UV印刷機(6色コーター付)を導入し、業界初となるLED-UV機によるGフルート段ボールへのダイレクトオフセット印刷に挑戦し新事業の開拓に成功した。代表取締役社長の橘東吾氏は、コロナ禍で菓子ギフトの需要が低迷するなか、「単なる印刷機の





代表取締役社長 橋 東吾氏(左) 製造部課長 菊池 由修氏(右)

増設ではなく、新たな事業領域を創出する戦略機として導入した」と当時を振り返っている。翌2022年には老朽化したCTPを入れ替え、刷版工程の無処理化にも乗り出した。

### CTPとプレートをコダックに統一し、刷版工程を完全無処理化

新しい印刷機を導入したあと、すぐにCTPの入れ替えと無処理版の導入を目指した理由について、橋社長は次のように話している。

「顧客は今、環境に配慮したパッケージを求めています。LED-UV印刷機の導入からはじまった環境への取り組みを、さらに一步前に進めるためには刷版工程の無処理化が重要だと考えました。もちろん、現像機のメンテナンスにかかる手間や現像廃液の処理コストなど、省力化とコスト削減の効果もあると見て、検討をはじめました」

ただ、機種選定をはじめると「CTPもプレートもコダックしかなかった」と橋社長は語る。これまでは印刷現場と離れた場所に製版室があったため、刷版運搬時にキズが付くことがあった。現像機がなくなれば印刷機の近くにCTPを設置できると考えていたが、設置条件にあう機械は省スペースタイプのKODAK ACHIEVE T800 プレートセッターだけだった。ACHIEVEなら、オートローダーとインラインパンチ/アンロードテーブルを接続しても、2×4mほどのスペースに設置できる。これなら印刷機のそばで刷版が出力でき、運搬時のキズ付きも心配ない。さらに無処理版についても、印刷機メーカーの推薦や同業他社での実績と評判からKODAK SONORA プロセスフリープレートが最有力候補となった。実際にテストを行うと、SONORAは従来の有処理版をはるかに超える耐刷性能を示したのである。これにより、橋社長は迷いなくACHIEVEとSONORAの導入を決断した。

### 環境配慮と同時に年間約150万円のコスト削減を達成

製造部課長の菊池由修氏は、SONORAについて「有処理版と使い勝手は全く変わらない」と高く評価している。

「SONORAを実際に使いはじめると、無処理版のデメリットなど全くありませんでした。机上現像が終わると、OKシートが素早く得られ、水幅にも違和感がなく、有処理版と使い勝手は全く変わりませんでした。キズ付きや現像ムラによる焼き直しも大幅に減りました」

実運用でのSONORAの耐刷性は平均3万枚、仕事内容によっては5万枚以上が可能とのこと。従来の有処理版は約1.5万枚程度なので、出力版数も、版交換の回数も少なくなった。さらに予備版も大幅に減ったと評価する。以前は刷版の露光・現像に時間がかかるため、夜間や大ロットの仕事では、事前に予備版を用意しておく必要があった。今

“SONORAには無処理版のデメリットなど一切なく、使い勝手は有処理版と全く変わりません。キズ付きや現像ムラによる焼き直しも大幅に減りました”

はわずか数分で刷版が出力できるため、版交換の直前に出力しても余裕で間にあうという。しかも印刷機のすぐそばで、印刷機のアオペレータが出力できるのである。こうしたSONORAによるコスト削減効果は年間で約150万円。内訳は薬品関連が約70万円、廃液回収費用が約30万円、予備版が約50万円となっている。現像機の電気代、水道代も減り、メンテナンスの手間と費用もなくなった。自動化による省人化の効果も明らかだと菊池課長は次のように指摘する。

「以前は一人のアオペレータが終日刷版を出力していましたが、今は午前中で出力作業が終わり、午後からは別の仕事を任せられます。オートローダーによる自動化とスキルレスで高品質な刷版を出力できるACHIEVEのすぐれた操作性が、工数削減に大きく貢献しています」

### 最新世代のSONORAの視認性と感度を評価

2023年9月には「視認性」「感度」「耐刷性」「耐傷性」を高めた最新世代のKODAK SONORA XTRA プロセスフリープレートの運用を開始した。特に「視認性」は従来比2.5倍に向上したことで、「有処理版との差はなくなった」と菊池課長は評価する。また「感度」についても「レーザー出力を抑えても露光スピードは変わらないので、電気代が節約できる」と高評価だ。コロナ禍で主力製品の需要が低迷するなか、積極的な設備投資で新規事業を開拓し、環境対応と省力化、コスト削減を達成した同社の成功の背景に、コダックのトータルソリューションがあるのは間違いない。そしてこれからも続く同社の挑戦をコダックの卓越した技術と充実したサポートが支えてゆく。



オフセット印刷による紙器関連製品を生産(左) 組立て加工まで一貫した生産設備を保有(右)

#### 株式会社ゴードー

代表取締役社長：橋 東吾

〒350-1101 埼玉県川越市大字的場1445 TEL 049-233-7777 (代表)

<https://www.godo-p.co.jp>

[KODAK.COM/GO/SONORA](https://www.kodak.com/go/sonora)

©KODAK, 2024. KODAK, ACHIEVE, SONORA, および KODAK ロゴはKodak社の商標です。仕様は予告なく変更になる場合があります。



コダック ジャパン <https://www.kodak.com/ja>

〒140-0002 東京都品川区東品川4-10-13 TEL.03-6837-7285(営業代表)

大阪:050-3819-1266 名古屋:050-3819-1265 福岡:050-3819-1270 札幌:050-3819-1250

2024-02